

# ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

## 創刊号

吉野ヶ里対談

### 肥前精神医療センターの歩む道

### 診療グループ ご紹介

精神疾患がよくわかるシリーズ

### ADHA

近所の名店

### 峠うどん

クラブ活動報告

### オッス！野球部です。

各部署をご紹介します。

### 西5病棟 企画課 ペガサス

2008.11





## 吉野ヶ里対談 「肥前精神医療センターの歩む道」

平野 誠（肥前精神医療センター 院長）

杠 岳文（肥前精神医療センター 副院長）

黒木 俊秀（肥前精神医療センター 臨床研究部長）

司会 藤瀬 陽子（肥前精神医療センター CRC 薬剤師）

■司会：本日の対談のテーマは「肥前精神医療センターの歩む道」  
をお願いします。

■杠：それじゃあ、まずは院長先生に語っていただきましょう。

■平野：当院は60年以上の歴史がありますが、今はその中でも一番大きな転換期じゃないでしょうかと思います。僕は40年近くここにいますけども、この2～3年は前の肥前だったら10～15年かけていたようなことを数年でやってきたような気がします。それは医療の環境がめまぐるしく変化していることや、なおかつ、先がよく見えない面もあるから必要な対応なのかもしれないですね。当院は立地条件、交通の便が良いとは言えないので、以前から、時代の先を見通して、先手先手でやってきたという歴史があると思います。まあマイナスをプラスにするという精神がこのこの遺伝子です。このDNAは継承していかないといけないですね。それがひとつのテーマだと思います。たとえばちょっと具体的なことを言いますと、全セクション参加で再生プラン推進委員会をやっていますけども、ああいう職種横断的な総力戦っていう雰囲気は今までなかったですよ。勢いを感じます。当院は、なにかテーマがあればこう結束力って大きいと思いますよ。これからの時代を生きていくためには目的のはっきりしたプロジェクトチームを作ってやっていくということが大事で、ここはそういう底力はあると思うんですよ。それを大事にしないとね。

それから組織ですよ。綱引きはたくさんメンバーでバラバラにやっても力が出ないでしょ。呼吸を合わせてそれぞれを力を一瞬に集中させることで大きな力になるんですよ。その組織にね、さっき言った肥前のDNAをどう組み込んでいけるかが大事だと思いますね。もう時代はね、新しい時代ですから。新しい感覚で次の時代をデザインしてほしいと思

います。その一つのヒントはですね、若い人に「いったい10年後、20年後はどういう姿になってるんだろうか」とフリーディスカッションやイメージをしてもらおうことだと思います。今のこと、明日のこと、来年のことだけを考えていては時代についていけないですからね。

あとは医療観察法のことですね。これは社会的なミッションというか支援、政策医療そのものですから、医療観察法病棟があるということでの当院の存在意義はあると思うんです。ただ、医療観察法病棟だけでは絶対ダメなんですね。

次に診療で重点をおいて考えなければいけないのは小児精神だと思います。どこもやろうと思ってもできないんですよ。医者は必要です。ちゃんとやってるのは日本でも少ないと思います。ここではやれる、というふうに言われてます。これはもう総力戦というよりチーム化してね。

あとはもういつも言ってますように魅力ある病院というのはどうすればいいのか。指示を待っているのではなく、こちらから提案していく姿勢が必要ですよ。

■杠：当院は立地条件があまり良くはないということで、逆にそこから生まれてくるエネルギーというのもあったんじゃないかと思っています。また、日本の中でどういう役割があるかということ、若い精神科医の教育、人を育てるというのが一番の重要な役割なんだろうなと思います。実際今も研修に来ている先生はたくさんいますし、その役割を求められているんだなと思います。

■平野：そうですね

■杠：さらに国立病院機構の精神科病院全体でネットワークを組んだ人材育成というのができないかなと思います。現在は2～3の病院と回線をつないで電子会議を開くといったことはしています。その先に研修の認定制度ができないかなと思うんですけどね。精神医療の基礎知識と臨床、これをきちっと評価して、この認定証を持ってたら対外的にも認められる、そういうようなものを作りたい。そうするとますます、ここへ来て、研修をして、臨床技



司会 藤瀬 陽子 CRC 薬剤師 長崎大学薬学部卒

能をちゃんと評価されたうえで卒業してってくれる人がもっと増えるんじゃないかと思います。それを当院だけじゃなくて国立病院機構のグループの中でそういう体制をね。ぜひそんなふうになればなと思ってます。

■**司会**：最近医師不足が話題になっていますが、精神科の医師は足りてないのでしょうか？

■**杠**：いや、そうではないと思います。地域によってばらつきはあるんだけど、そんなにしないうちに充足するんじゃないかという意見もあります。ただ、社会的なニーズもずいぶん高まるとも思いますからね。それでもやっぱりそのうちにオーバーフローするんじゃないかと思います。そうすると医者が選ばれる時代にね。そうなれば、きちんと知識・技能をもってそれが評価されているということもより意味を増すということになります。実際、どこで研修したとかどういう経歴であるとかは今まで以上に研修医が気にしていますもんね。

■**司会**：黒木先生にお聞きしたいのですが、臨床研究の面で当院の取り組みはいかがでしょうか？

■**黒木**：当院の臨床研究部っていうのは1986年（昭和61年）に発足してます。今は、どちらかというと肥前は臨床のほうが中心となっておりますけど、臨床研究部のほうも動いてまして、神経薬理化学、杠先生の認知症、脳外傷とかの問題、それから発達心理、発達行動科学、社会精神医学、司法精神の研究、厚生労働省のほうからの受託研究もたくさんもってますし、大学との共同研究もあります。そんな中で、杠先生がおっしゃったようにたくさん若い方がいますんで、そういう人は臨床の力をつけるだけでなく、自分たちが日々実践していることは学問として、精神医学、あるいはその関連分野の領域の中でどういう位置づけられるかということ意識していくことが非常に大事だと思います。精神科医療の狭い、いろんな偏見を受けやすい領域に閉じこもらないで、いろんな研究分野に出て行って、そして様々な領域の人たちとつながるチャンスを持つことが大事だと思います。私もそうですけど、肥前に来なければ違う分野の先生たちと交流もったりする

こともまずなかったらと思います。確かに私たちの日常は日々患者さんとご家族のために何か役立つことをしたいと、それに身をやつすわけですけども、それだけではなくてより広い領域の人たちとの交流、つながりをもつためにも臨床研究というのは大事だと思います。それともう一つ今、うちで力を入れているのは治験ですね。他の薬もそうですけど、精神科の

領域での臨床治験というのはいろいろな制約があって、しかしずいぶんこのところシステムの円滑さが向上してきて非常にやりやすくなった。で、治験というのは今すぐ患者さんやご家族に役に立つというわけではなくて、むしろ治験というのは患者さんにある種のボランティア精神で協力していただくんですね。将来の他の患者さん、ご家族のために役立つかもしれない、という点で協力していただくということに非常に価値があると思うんですよ。今後は、私たち自身がその点をもっと意識しながらプロモートしていく必要があると

思います。今まで治験っていう **平野 誠** 院長 九州大学医学部卒と人体実験のようなイメージが

大きかったかもしれないけれど、そうではないんですよ。治験のあり方っていうのは社会文化的な風土で異なっていて、その中で日本の治験はどうあるべきかという点について、私が存じ上げている先生は、「ボランティア精神を尊重しながら、むしろボランティアで参加していることの喜びを患者さんに感じてもらう、私たちはそんなふうに進めていかなければならない。」と。私もそういうのが大事だろうと思いますね。不幸にして精神疾患になられてご苦労をされる、しかしご自身の体験をある程度乗り越えてぜひ治験に参加していただくことですね、ボランティアというかたちで社会的な貢献をしていただくことができるというね。そういう理念で私は治験を進めていきたいと思っています。

■**司会**：治験についても知られていない点が多いですよね？

■**黒木**：だから治験について知ってもらうことが重要ですね。治験に参加していただくというのは自分の為だけじゃないんですよ。人のためになることなんです。私たちも協力してくれている患者さんに感謝しつつ、未来のためにという気持ちで治験を進めていただくべきですね。そうして新薬の開発に関わることも当院の役割だと思います。



**平野 誠** 院長 九州大学医学部卒



**杠 岳文** 副院長 慶応義塾大学医学部卒



**黒木 俊秀** 臨床研究部長 九州大学医学部卒



# 診療グループご紹介

肥前精神医療センターには、疾患やライフステージに応じた6つの診療グループがあります。



## 総合診療グループ

我々総合診療グループは、統合失調症、うつ病などの一般的な精神疾患に対する診療を行っています。それぞれの患者さんに応じた適切な診療を、人権を尊重し、他院の先生方と連携しながら行っていきたくと思っています。(岩永英之)

グループ長 佐伯 祐一  
(九州大学医学部卒)

## 児童思春期グループ

児童思春期グループは、瀬口医長と常勤医師4名、非常勤医師6～7名で診療を担当しています。ほかに心理療法師や児童指導員も診療に関わっています。疾患は発達障害、統合失調症、うつ病、強迫性障害などさまざまです。母親向けの学習会も行っています。これからも専門的かつ丁寧な診療を目指して一同がんばっていきますので、よろしくをお願いします。(會田千重)

グループ長 瀬口 康昌 (九州大学医学部卒)



## 老年期グループ

経験豊かなスタッフに加え、MRIやキセノンCTなどの画像検査機器が揃い、認知症の診断と治療が的確に行えます。病棟では環境面の充実に加え、作業療法にも力を入れており、患者様の病状の改善と安定に努めています。(矢野秀郎)

グループ長 橋本 学 (佐賀医科大学卒)



ひげんだより

## アルコール・薬物グループ

アルコール依存の方だけでなく、薬物・ギャンブル依存などの患者さん、家族の方からの御相談、治療に当たっています。入院治療は開放病棟で行い、「久里浜方式」と呼ばれる、患者さんの自主性を尊重した認知行動療法的枠組みを基に、数十年に渡る当院での治療経験から工夫を重ね、看護師、作業療法士、心理療法士やPSWと協力して診療しています。また、自助グループとの連携など、地域と密着した診療であることも当グループの特色です。御本人が受診を拒否することも多い領域ですが、御家族からの相談でも、解決に向けた第一歩になると考えていますので、一度御相談下さい。



グループ長 武藤 岳夫  
(佐賀医科大学卒)



## 司法精神医学グループ

司法精神医学グループでは、各種の精神鑑定や医療観察法に基づく入院治療を行っています。入院治療では、病院内外の多職種チームが技術と知識を結集して、専門性の高い先進的な治療を実現させようとしています。(佐藤政子)



グループ長 須藤 徹  
(九州大学医学部卒)

## 内科グループ

内科医長：原 俊哉（専門：内分泌・代謝、肝臓、糖尿病）  
生化学研究室長：八尾 博史（専門：脳血管内科）  
内科医師：高島 由紀（専門：神経内科）  
おもに精神科の患者さまの身体合併症にかかわる診療を行っています。  
(高島由紀)

グループ長 原 俊哉  
(佐賀医科大学卒)





# ADHD；注意欠陥多動性障害

解説者 木下直俊

木下直俊 大阪大学医学部卒 小児精神科医  
平成15年より当院に勤務しています。  
現在児童思春期病棟医長、医局長です。

注意欠陥多動性障害（ADHD）は注意の障害と多動が幼少期から認められることが基本的な特徴です。不注意な間違いを繰り返したり、一つの課題に長く取り組むことや、じっとしていることが難しかったり、後先考えずに衝動的に行動したりすることが年齢不相応に起こる発達障害です。生物学的な原因が関与していると考えられていますが、現時点では原因ははっきりしていません。診断には小児科医師、児童精神科医師による診断が必要です。しばしば児童虐待の影響や広汎性発達障害など他の発達障害との鑑別が難しい場合があります。ADHDを持つ子どもは、ルールを守れないとか課題をしないといったことで叱責されることが多く、そのため自己評価が低くなってしまい、二次的な情緒障害につながる場合があります。これを防止するため、病院では心理社会的治療と薬物療法を行います。心理社会的治療では生活環境の構造化などの環境調整や、患児本人に自分の特徴と対処法を教える心理教育や、子どもの現状を踏まえた目標設定をするなど自尊心に配慮した対応などを患児本人と家族と学校などと一緒にやって行きます。薬物療法ではADHDの症状そのものの改善を図るメチルフェニデートと二次的情緒障害を主なターゲットとした気分安定薬や抗うつ薬などが用いられます。



昭和57年10月開店。約45年前に母親が三瀬峠に開業した店の屋号を継承して東背振村（現吉野ヶ里町）に開店しました。店長さんに突撃インタビューしました。(^o^)

- 取材班：このお店を開業してから、こだわりとか心がけていることはありますか？
- 店長：そうですね…メニューを変えず、他にはないものを提供しているところですかねえ。
- 取材班：では、お勧めのメニューは？
- 店長：山菜たっぷり峠うどんと鶏肉・キンピラの田舎うどんかな。

ということで、さっそくいただきました！！峠うどんは味のしみた山菜がシャキシャキして、肉厚のしいたけも絶品♪そして田舎うどんは鶏肉がボリューム満点でおいしく、うどんもモチモチ☆ これでも十分満足ですが、定食にすると・・・しいたけご飯がついてきます＼(^o^)/もの静



かなながら、とてもあたたかい店長さん、ありがとうございました。「峠うどん」は、肥前正面の前の道路（鳥栖川久保線）を向って右方向（鳥栖方面）へ進んですぐのところ。すぐに看板が目に入りますよ。また次回もご近所さんにお邪魔します。

## クラブ活動 報告

# オッス！野球部です。俺たち裸がユニホーム！！だあぁあ

90年代の景気低迷の折、あらゆるアマチュアスポーツ界では、実業団廃部のニュースが飛び交い、スポンサー企業の撤退が相次いだ。旧国立病院・療養所でも、ちょうど俺が就職した頃に・・・撤廃された（大泣）。しかしながら「野球は永久に不滅」と言う言葉通り？（笑）、誰かしらが、「野球」を始めるものなんだ！肥前に移って来てから、野球部があることに心躍らせたことを今でもはっきり覚えているぜ！肥前のナイター設備とネット類の充実にはマジ驚いた！！程なくして俺が野球部に入部するのは想像にたやすく、夜勤三交代の合間だから、当然ながら存分にはいかないまでも、仲間たちと今日まで草野球を続けているぜ！草野球ほど人口が多い草スポーツはないよね～。（Ns. 安永）



# 各部署をご紹介します。

**西5病棟** 当院の西5病棟は、平成11年に精神科急性期治療病棟として開設されました。現在では精神科救急病棟として、緊急性の高い患者様の入院に365日24時間常時対応できるよう努めています。入院中は薬物療法、精神療法、心理教育、作業療法、ソーシャルワークなどの多職種によるチーム医療を実践しています。また、時間軸を見据えたクリニカルパスの導入も積極的に行なっております。さらに、「全ての対応を速やかに、安心・安全の看護の提供」という看護目標のもとに地域連携を図り、早期の退院を目指しております。(PSW 鶴丸)



**企画課** 事務部においては、管理課と企画課があり、それぞれ診療部門がその能力を最大限発揮できるようサポートすることが主な役目となっています。企画課は大所帯です。

- ① 契約係；医療機器、医療用消耗品、庁用備品、一般消耗品などの契約・購入を担当します。
- ② 業務班長；治験関係、国からの補助金、研究費を担当しています。



- ③ 財務管理係；診療収入（現金・預金）の出納、管理を担当しています。
- ④ 経理係；支出、執行計画、会計記録の確認等を担当しています。
- ⑤ 施設設備；施設管理（ボイラー、電気、営繕）を担当しています。
- ⑥ 経営企画室；中期・年度計画の策定、月次決算に基づく計画の実施状況の把握、業務の改善方策の企画及び立案等を担当しています。
- ⑦ 医事業務；医事は、診療費の算定、請求、診療関係の統計、カルテの保管、苦情相談、医療訴訟等を外来棟1階で行っています。

病院を運営・経営する大切な部署の集まりであり、家庭で言えば「お母さん役」にあたると思います。家計を切り盛りする能力が必要な部門です。診療部門「お父さん役」を助け、収入を多く持ってきてもらうために、サポートしております。この車の両輪はどちらがパンクしても大変なことになります。「お父さん役」の皆さんのガンバリを期待し、楽しい家庭生活が出来るように「お母さん役」として一緒にガンバッテ行きたいと思っております。(中村経営企画課長)

## ペガサス（動く重症心身障害児通園事業）



♪ペガサスってこんなところですよ♪

ペガサスには、重度・最重度知的障害のいわゆる動く重症心身障害児（者）の方がこられています。利用されている方の多くは自閉症と診断されています。園芸・調理・手芸・絵画などの活動に日々、取り組んでいます。今、ペガサスのブームは「佐賀にわか劇場」です。がばい、楽しかよ〜^^v

ある日のペガサス・・・



9月某日、ペガサスでは佐賀にわか劇場「なしでん」公演が行われました。役者は、通所者さんとスタッフの名優たち。ペガサスの「居間」のようなホールが、この日ばかりは舞台になり「はじまり、はじまり〜」。名優たちのアドリブも入りながら、最後は通所者・Aさんが、佐賀弁ならではのオチをしっかりとつけてくれました。この佐賀にわか劇場、実は通所されているBさんの誕生日会のもよおしの一つ。昼からのメインはケーキ作り！ みんなで焼いて、盛りつけて・・・こんな大作も完成ですよ♪（ちなみにかざりの花は、ペガサスで育てているものです）盛りだくさんの一日でしたが、通所者さんもスタッフも、お疲れさまでした！





# 連携室マスコットの名前を募集しています！

いつの間にか連携室に迷い込んできました。この子に名前をつけてあげてください！

目科：かささぎ（カチガラス）・オス

生息地：肥前精神医療センター 地域医療連携室

生態：主食→なやみごと 特徴：連携室で相談を今か今かと待っている。

愛くるしいつぶらなヒトミとぼっちゃりしたスタイルで、連携室員を和ませている。ちゃめっけのあるポーズをとっているが、何を考えているのかはナゾである。

募集締め切り：平成 20 年 12 月 31 日（水）当日消印有効

採用された方に、1 万円相当の商品贈呈！！何がくるかはお楽しみ☆

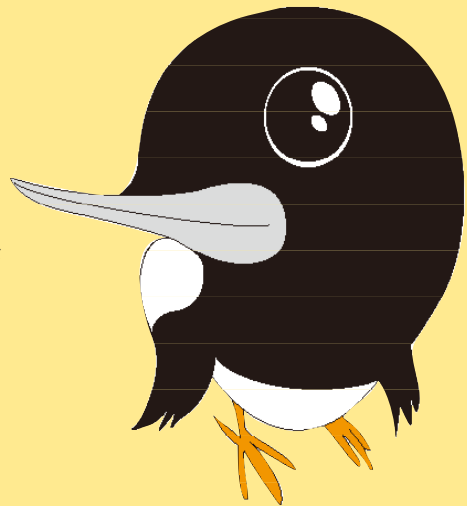
応募はハガキ・E メールにて 住所・氏名・年齢・電話番号・マスコットの名前をお書き添えの上、次の宛先までお送りください。

宛先 住所：〒 842 - 0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津 160

肥前精神医療センター 地域医療連携室 まで

E メール：c\_renkei@hizen2.hosp.go.jp

たくさんのご応募お待ちしております！



## イベント情報

肥前文化祭；12月3（水）・4（木）・5（金）日 作品の展示、模擬店、いろいろあります。どうぞご来場ください。

## 年末年始の診療体制

年末年始において当院は、平成 20 年 12 月 27 日（土）から平成 21 年 1 月 4 日（日）まで当直体制です。ただし、緊急の場合は当直医が待機していますので、ご連絡ください。新規の受診も受け付けています。



肥前は吉野ヶ里のまほろば

## 「朝の散歩」

匿名投稿者

肥前の敷地は、自然が豊富である（西の田遺跡の中に位置する）。今朝の散歩は、いつもと違い清々しくも神々しいものであった。東の大地から真っ赤な太陽が昇り、西の方には白い満月が沈もうとしていた。

太陽と月がランデブーする姿は、なかなか見ることは出来ない。朝から太陽と月のエネルギーをもらい、何だか力が湧いてきた。

## 編集後記

何とか創刊号を発刊でき、ほっとしています。今後もっと楽しい情報誌にしていきたいと思います。よろしくお願ひします。（編集長）

## 平成 20 年 11 月 5 日発行

編集・発行；肥前広報誌作成委員会（佐伯、村上、川原、江頭、平位、鶴丸、佐藤、天野、行時、武田、藤瀬、安永）

発行所；独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒 842 - 0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津 160 Tel 0952-52-3231 Fax 0952-53-2864 Internet <http://www.hosp.go.jp/~hizen/>